

## 教材使用報告書①

1	<b>機関名：</b> サンクトペテルブルグ国立文化大学 Санкт-Петербургский государственный институт культуры
2	<b>報告者名：</b> コルパシチコワ・リュボーフィ Колпашикова Любовь Владимировна
3	<b>使用教材名：</b> 上級日本語教科書『文化へのまなざし』
4	<b>使用クラス概要：</b> 「総合日本語・上級クラス」の授業で2016年9月1日から「文化へのまなざし」を使っていた。 学習者は6人で、全員は2016年12月に行われた日本語能力試験2級を受けたものです。 授業時間は週に4時間（2コマ）だ。 使用期間は4ヶ月で、その間毎週2時間、「国際共通語」、「個性と学び」、「翻訳」というテーマに関連する資料を使った。
5	<b>そのクラスで新しい教材を使用した目的：</b> 「総合日本語・上級クラス」には、大学卒業後、研究生として日本へ留学を考えている学生と、日本企業に就職したいという二つのタイプの学生がいる。どちらにとっても資料を求める能力、長文を書く力、短期時間で翻訳をする力が身につくことは大切だ。「文化へのまなざし」を使用すれば、その三つの目標達成できると考えた。
6	<b>教材使用例：</b> 本学では、「総合日本語」のクラスで漢字・文法・読解・聴解・翻訳・作文の練習を行うことになっている。話す練習を主に会話授業で行うことになっている。 「文化へのまなざし」を読解・翻訳・作文・プレゼンテーションをする練習教材として使っている。 授業を次のように行う。 ① 資料を出す前に、学生にテーマだけ伝えて、それについて考えさせる。参考資料として語彙リストを渡し、内容を予測させる。 <b>次の授業で90分（1コマ）②～⑥の内容を行う</b> ② 次の授業で最初の15分間宿題で出されたテーマについて話し合う。例えば、「翻訳」というテーマを出したとき、学生は翻訳された文学作品・翻訳家の仕事・翻訳アプリなどのことについて話し合った。 ③ 「テキスト」の資料①を出し、「予習シート・語彙・文型」の「読む前に」に出てくる質問に答えさせる。与える時間は15分。

	<p>④ 「予習シート・語彙・文型」に出てくる文型の復習を行う。30分</p> <p>⑤ 資料①のテキストの見出しを読み、内容をスキミングさせる。15分</p> <p>⑥ 資料に記載されているグラフ・図を見て、そのデーターについて話し合いさせる。15分</p> <p>⑦ 次の授業までに資料①のテキストを翻訳する宿題を出す。</p>
6	<p><b>次の授業で90分（1コマ）⑧の内容を行う</b></p> <p>⑧ 次の授業で学生が書いた翻訳文をチェックし、「予習シート・語彙・文型」に出てくる「読みのヒント」の質問に答えさせる。90分</p> <p>⑨ 宿題として「テキスト」の課題・資料1から資料2への「まとめよう」の質問に答えさせる。次の授業で書いたものを提出させる。</p> <p><b>次の授業で90分（1コマ）⑩⑪の内容を行う</b></p> <p>⑩ 次の授業で学生一人一人にその考えをみんなの前に発表してもらう。30分</p> <p>⑪ テーマ関連の聴解練習をする。60分</p> <p>例えば、テーマ③「通訳」で授業を進めたとき、「日本文化を読む・中上級学習者向け日本語教材」の聴解練習問題を使った。資料①のテーマは「村上春樹さん「キャッチャー・イン・ザ・ライ」の題は訳さないのですか？」で、聴解練習問題⑪に「天井裏」という村上春樹の小説の一部が載っている。同じ音声を3回学生に聞かせた。1回目はその練習問題に出てくる質問リストだけ渡して音声を聞かせ、その質問に答えさせた。2回目は聴解問題のスク립トを出して、音声を聞かせた。最後に文書をロシア語に訳してから、もう一度音声を聞かせた。毎回CDを聞いた後、質問の答えの確認を行った。</p>
7	<p><b>教材を使用した成果、効果：</b></p> <p>「文化へのまなざし」を使用することで日本新聞を読む準備ができ、文化について話し合うとき、使える語彙の数が増えたように思える。また、質問の答えを学生に書かせていたので、漢字の練習にもなったと思う。</p> <p>学生の日本文化に関する知識を増やすことができたことを、国際交流基金のご紹介で行われた中村文則作家の講演のときに感じられた。「文化へのまなざし」で練習をしたおかげで、ロシア語に翻訳されていない・日本語版の本もロシアの本屋に出されていない状況で短時間で日本の新聞やインターネットで関連の資料を集めることができたと思われる。</p> <p>ただし、時間をおいて学習した語彙・文型や得た知識をどのくらい使えるのか夏の年末試験のときに明確になると考える。</p>
8	<p><b>教材について、使用しにくかったところや、今後の課題など：</b></p> <p>「文化へのまなざし」のテキストと予習シート・語彙・文型の教科書の他、CDがあれば、同じ教科書で聴解練習もできたと思う。同じクラスで後期からもこの教科書を使っていきたいと思う。</p> <p>ただし、学習のレベルが同じでも、そのニーズが学年によって異なっているため、2017年9月1日から別のクラスで使い、もっと正確なデーターが取れると思う。</p>